

特定非営利活動法人 ピープルズ・ホープ・ジャパン

2024年度 事業報告

1. 概要

1.1 PHJ 海外事業と SDGs

PHJ は設立以来、保健・医療分野における国際協力活動を実施してきており、2003 年からは母と子の健康・栄養改善に焦点をあてた活動を展開してきました。PHJ の支援事業は、2015 年の国連総会にて全会一致で採択された世界共通の開発目標である「持続可能な開発目標 (SDGs)」の目標 3「すべての人に健康と福祉を」を目指す取り組みです。具体的には、事業対象地の保健課題に基づいて「妊産婦死亡の削減 (ターゲット 3.1)」、「新生児死亡・5 歳未満児死亡の削減 (ターゲット 3.2)」、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現 (ターゲット 3.8)」を目的とした支援事業を実施しています (添付の関連図を参照)。

1.2 事業内容と進捗

2024 年度の海外支援事業は次のように実施しました。

- (1) カンボジア・シェムリアップ州ソトニクム保健行政区において「安心安全なお産のための保健システム強化支援事業」を継続中。
- (2) ミャンマー・ネピドー特別行政区レウエイ郡において「妊産婦と新生児の健康改善のための保健システム強化支援事業」を継続中。

カンボジア支援事業は、シェムリアップ州ソトニクム保健行政区において「安心安全なお産のための保健システム強化支援事業 (2023 年 4 月～2026 年 3 月)」を実施しています。(独) 国際協力機構 (JICA) 草の根技術協力事業は 1 年次事業を 2024 年 3 月に計画通り完了し、4 月より 2 年次事業を実施しております。また、事業開始後に確認された新たなニーズへの追加活動にかかる保健省との事業合意書を改定し、住友ファーマ株式会社殿、成田コスモポリタン・ロータリークラブ殿よりいただいたご支援を基に冠事業を実施しました。

ミャンマー支援事業は、ネピドー特別行政区レウエイ郡において「妊産婦と新生児の健康改善のための保健システム強化支援事業 (2020 年 12 月～2025 年 6 月)」を、外務省の補助金事業 (N 連事業、日本 NGO 連携無償資金協力事業) および小野薬品工業株式会社殿、株式会社八神製作所殿の冠事業として実施しています。2 年次事業は、事業期間を 2 ヶ月延長して 2024 年 6 月に完了しました。7 月より 3 年次事業を開始します。また、ミャンマー保健省との事業合意書は 2023 年 11 月に有効期限を迎えましたが、現在、更新手続きを進めているところです。

1.3 広報・募金活動

ご支援者への活動の報告として、2023 年度アニュアルレポート、ニュースレター「はしをかける」を正会員、賛助会員および関係者・関係団体に (2 月・6 月) に送付しました。また、2011 年 3 月から 2021 年 12 月まで実施した東日本大震災被災者支援の活動の記録を取りまとめ、2024 年 2 月に「東日本大震災支援総合報告書」として発刊しました。

2024 年 2 月 15 日より開始した、クラウドファンディング「母と子の命を守る | お産を支える医療機器を、カンボジアとミャンマーに」は、114 名の方から 300 万円を超える寄付が集まりました。

マンスリーサポーター向けにオンライン報告会を 2023 年 10 月、2024 年 4 月に実施しました。

国際協力への理解と関心を深めるため、2023年11月「異文化理解と国際協力_カンボジアの母子保健の現場から」、2024年5月「世界遺産のそばで取り残される母子の健康&駐在員が教える国際協力のための英語講座 PART II」をオンラインと対面のハイブリッド形式で開催しました。

企業とのコラボレーションによる支援活動を紹介するため、2024年2月にオンライン対談イベント「小野薬品×PHJ ミャンマー連携事例紹介「企業価値向上をもたらす NGO との連携とは」」を実施しました。

恒例のカレンダー募金では、カンボジアと武蔵野市の子どもたちが描いたおとぎ話の絵をもとに「アジアのおはなしカレンダー2024」を壁掛けと卓上型で制作。ご寄付のお礼に配布しました。また三鷹国際交流フェスティバルに出展し、カレンダーを通して PHJ を知っていただく機会となりました。

PHJ ホームページについては、適切にメンテナンスするとともに、NPO 法に基づき必要な情報を開示しています。また、Facebook、Instagram といった SNS を活用した情報発信も行っています。

PHJ の経常収益における法人・個人賛助会費の実収入が減少し続ける中、資金調達に特化した専門家に依頼し、助成金獲得・認知度向上など様々なタスクに向けて取り組んでいます。

2021年5月に開始した書き損じハガキや未使用切手・金券のご寄付は、2023年12月から2024年3月まで第3回目の回収強化キャンペーンを実施し、16万3,467円のご寄付となりました。

オンライン、対面、さらには現地視察など多角的に PHJ の取り組みを伝える機会を提供し、ご支援者との信頼関係の維持・強化につながりました。

1.4 人財育成活動

2023年9月に日本赤十字看護大学、2024年2月に神奈川県立保健福祉大学の学生が、カンボジア事業の現地視察を行いました。2024年9月（予定）に埼玉大学教養学部の「異なる文化と出会う・開発人類学調査法」におけるカンボジアで行う調査に協力するスタディツアーを実施するために、2024年5月に事前勉強会を行いました。保健医療分野における草の根レベルの支援活動の現場の視察を通して、貴重な出会いや学びの場を提供しました。

2023年7月に相模原看護専門学校看護学科の「災害看護と国際支援」の授業、9月に日本赤十字看護大学大学院国際保健助産学専攻の「国際保健助産実習」の勉強会、8月に創価大学法学部の「人間の安全保障フィールドワーク」の事務所来訪、10月に上智大学総合人間科学部看護学科の「見学実習」の事務所来訪、12月に青山学院大学経済学部経済学科の「英会話：NPOについて」の事務所来訪、2024年6月に上智大学総合人間科学部の「異文化理解と国際保健活動」の授業を行いました。

2023年11月から2024年6月まで、青山学院大学国際関係学部の学生1名を東京本部海外事業部で受け入れました。海外事業部での実際の仕事を通して、国際協力 NGO の業務を理解する機会を提供しました。加えて、参加型の学びのイベントの企画・準備・調整業務を主体的に行い、6月に「ミャンマーで『妊婦』になるってどういうこと？」を対面・オンライン形式で実施しました。また、2024年4月から（2025年3月までの予定）、上智大学総合人間科学部看護学科の学生1名を広報室で受け入れ、主に SNS での広報・情報発信に取り組んでいます。

武蔵野市より武蔵野市立第一中学校の「開かれた学校づくり協議会」の委員として PHJ スタッフが推薦され、2023年5月より学校運営のパートナーとして協議会に参加し、2024年も継続して参画しました。学校教育への貢献や地域とのつながりの強化につながりました。

1.5 会計報告

2024年度決算は経常収益が6,483万円（予算10,648万円）、経常費用が10,089万円（予算11,150万円）となり、年度収支は▲3,607万円（予算▲502万円）となりました。この結果、次期繰越正味財産

は 7,734 万円となりました。

この繰越正味財産のうち、「使途が制約されていない繰越正味財産」は 5,344 万円であり、昨年度に比べ 842 万円と大幅に減少しておりますが、その要因として 2 つ上げられます。(1) ミャンマーN 連 2 年次事業の未精算額が約 600 万円あり、これが期末時点で自己資金から支出されていること（清算処理は 2025 年度に実施され、N 連の口座から、自己資金の口座へ戻される予定）。(2) カンボジア事業においては JICA との契約上、事業が完了するまで期間、事業支出の 90%が PHJ に支払われ、残りの 10%は事業完了後（2026 年度）に清算され、後払いされる内容となっていることです。後払いの当年度分は、約 280 万円にのぼりました。これら 2 つの清算処理が実行されることにより、「使途が制約されていない繰越正味財産」の大幅な減少は解消されます。

収益について項目別にみると、賛助会費（団体賛助会費と個人賛助会費）は 2,198 万円となり、漸減傾向が続いています。法人寄付については、予算策定時には想定していなかった大型の寄付があり、800 万円となりました（予算 550 万円）。また、一般寄付は、クラウドファンディングで 300 万円を超えるご寄付をいただき、934 万円に達しました（予算 750 万円）。公的補助金はミャンマーN 連 3 年次の贈与契約の入金が当年度から 2025 年度にシフトしました。N 連事業の残余金の返納は、カンボジア・コンポンチャム 2 年次事業で 159 万円、3 年次事業で 37 万円、ミャンマーレウエイ郡 1 年次事業で 394 万円の合計 542 万円を 2024 年度中に返納する予定でしたが、外務省との交渉を経て、ミャンマーレウエイ郡 1 年次事業の 394 万円のみを年度内に返納しました。JICA カンボジアの事業収益は、2,560 万円の収入がありました。

支出について項目別に見ていくと、カンボジア支援事業で 3,625 万円（予算 3,735 万円）、ミャンマー支援事業で 3,153 万円（予算 4,185 万円）となりました。ミャンマー支援事業において、支出が抑えられた要因として、計画していた人員の採用が遅れたことと、大幅なチャット安の影響があげられます。広報・募金活動費は 1,751 万円（予算 1,760 万円）、管理費は 1,561 万円（予算 1,465 万円）となり、これらは概ね予算通りの支出となりました。

商品寄付については、2024 年度は収益、支出ともありませんでした。

2. 支援活動報告（事業報告）

2.1 カンボジア支援活動

2.1.1 シェムリアップ州ソトニクム保健行政区における安心安全なお産のための保健システム強化支援事業（委託事業・自主事業）

本事業は、シェムリアップ州ソトニクム保健行政区にて、2023 年 4 月 4 日に開始しました。事業対象地のすべての女性の安心安全なお産のために、1)地方病院と保健センターの助産サービスが向上し、連携が強化される（医療を提供する側：サプライ・サイド）、2)ボランティアの能力が強化され、保健センターとコミュニティの連携が強化される（医療と住民をつなげる：コミュニティ）、3)地域住民の母子保健、特に安全な妊娠・出産に関する知識が向上する（医療を利用する側：ダイヤモンド・サイド）を目指し、シェムリアップ州保健局及びソトニクム保健行政区、地方病院、保健センター、コミュニティと連携しながら、以下の活動を実施しました。

●地方病院と保健センターの助産サービスを向上させ、連携を強化する活動

保健行政区・地方病院レベルでは、MCAT 会議（助産師連携チーム会議）を開催しました（2023 年 11 月と 2024 年 6 月。年 2 回開催）。保健センターレベルでは、保健センタースタッフ会議のモニタリング（とフィードバック）を対象 6 保健センターで実施しました（2024 年 2 月から 6 月。四半期毎に各保健センター年 4 回実施）。また、保健行政区スタッフのサポーターズ・スーパービジョンの勉強会を行い（2024 年 11 月）、保健行政区スタッフが保健センターを訪問して現

場で行うスーパービジョンを対象 15 保健センターで開始しました（2023 年 12 月。四半期毎に各保健センター年 4 回実施）。同時に、保健行政区スタッフによるリファラル・システムのスーパービジョンを対象 15 保健センターで開始しました（2023 年 12 月。四半期毎に各保健センター年 4 回実施）。さらに、保健センターの助産師を対象とした「セーフ・デリバリー・アプリ」と「E-Learning 用ビデオ教材（健康教育&分娩ケア）」に関する研修（2023 年 10 月）、保健センタースタッフを対象とした MPA 研修（保健センターの管理）（2024 年 3 月～4 月）、地方病院スタッフと保健センターの助産師を対象とした緊急トリアージ研修（2024 年 5 月）、保健センターの助産師を対象としたホスピタリティ研修（2024 年 6 月）を実施しました。対象 25 保健センターに分娩介助用医療器材各 2 セットとパルスオキシメータ各 1 台を寄贈し、ニーズの高い 13 保健センターに分娩台各 1 台、8 保健センターに胎児心音測定器各 1 台をそれぞれ寄贈しました（2024 年 5 月）。遠隔地の 3 保健センターに分娩室や妊婦健診で使用する器材（LED 照明、担架、オートクレーブ、血圧計、車いす等）を寄贈しました（2024 年 3 月）。併せて、1 保健センターに井戸とウォーターディスペンサー 1 台を寄贈しました（2023 年 9 月～11 月）。

● ボランティアの能力を強化し、保健センターとコミュニティの連携を強化する活動

ボランティア会議のモニタリングとフィードバックを対象 6 保健センターで開始しました（2023 年 8 月。隔月で各保健センター年 6 回実施）。併せて、地域で活動する保健ボランティアの能力強化研修を実施しました（2024 年 2 月～3 月）。また、保健センタースタッフと保健ボランティアが協力し、ポジティブな出産経験のプロモーション活動を対象 93 村のうち 41 村で実施しました（2024 年 4 月～6 月）。

● 地域住民の母子保健、特に安全な妊娠・出産に関する知識を向上させる活動

保健当局と協力して、ボランティアによる地域保健活動のための教材を作成しました（特製ダイアリー 285 冊、啓発ポスター 930 枚、啓発リーフレット 9,000 枚）。その教材を活用して、ボランティアによる保健教育・啓発活動を対象 109 村のうち 55 村で実施し（2024 年 4 月～6 月）、ボランティアによる妊婦の個別訪問を開始しました（2024 年 5 月）。また、保健啓発 Q&A セッションを対象 6 保健センターで実施しました（2024 年 3 月）。対象保健センター（計 3 保健センター）で、保健センタースタッフ（助産師含む）による予防接種アウトリーチの際の保健教育を開始しました（2024 年 4 月～6 月。17 村で実施）。

● 日本国内での活動

事業報告会・イベント「異文化理解と国際協力：カンボジアの母子保健の現場から」を武蔵野プレイスにてオンラインで開催しました（2023 年 11 月）。同じく、「世界遺産のそばで取り残される母子の健康&駐在員が教える国際協力のための英語講座パート II」を JICA 地球ひろばで開催しました（2024 年 5 月）。

2.2 ミャンマー支援活動

2.2.1 ネピドー特別行政区レウエイ郡における妊産婦と新生児の健康改善のための保健システム強化支援事業（補助金事業・自主事業）

本事業は、ネピドー特別行政区レウエイ郡にて、2020 年 12 月 1 日に開始しました。地域の保健システムの強化を通して、保健サービスの質の向上と利用を促進することによって、母と子の健康が改善されることを目指します。また、ネピドー公衆衛生局及びレウエイ郡保健当局と連携しながら、レウエイ郡での活動の成果が、ネピドー特別行政区内の他の郡に波及されるよう取り組みます。事業活動は、1) ネピドー特別行政区内の他の郡への本事業成果の波及を目指した活動、2) 郡保健局－医療者－コミュニティの連携を促進させる活動、そして 3) 妊産婦と新生児の保健サービスへのアクセスの向上を目指した活動の 3 つのアプローチで構成され、それぞれのアプローチにおいて以下の活動を実施しました。

●ネピドー特別行政区内の他の郡への本事業成果の波及を目指した活動

保健省との年次調整会議は保健局内の関係部署との個別会議という形式とし、母性保護課および子どもの保健課と会議を開催しました（2023年9月。年1回開催）。また、ネピドー公衆衛生局との事業評価会議を開催しました（2024年2月。年2回開催）。そして、ネピドー特別行政区内の全8郡保健局を対象にした保健管理情報システムの再研修を実施しました（2024年3月）。

●郡保健局－医療者－コミュニティの連携を促進させる活動

助産師、補助助産師、母子保健推進員が集う地域医療関係者会議を対象40保健施設にて定期開催しました（隔月で各保健施設年6回開催）。また、レウエイ郡保健局での継続医療学習（CME）の開催を支援しました（毎月の開催）。レウエイ郡保健局スタッフとの事業ワークショップを行い、活動の進捗状況や成果指標の推移状況を確認しました（2023年8月と2024年6月）。基礎保健スタッフ（主に助産師）の能力強化支援として、緊急産科ケア（BEmOC）の再研修（2023年11月）、新生児・小児疾病統合管理（IMNCI）の再研修（2024年3月）、保健管理情報システムの再研修（2024年4月）に実施するとともに、2024年の年間活動計画（村での保健教育）の策定を支援しました（2023年12月）。また、レウエイ郡病院に新生児吸引器1台、吸引分娩カップ1個、手術用照明器1台、胎児心拍数計測器（CTG器）1台、ビリルビンメーター1個、ドップラー1個、ターウェッティ病院にビリルビンメーター1台をそれぞれ供与しました。併せて、助産師に基礎的な分娩介助用医療器材を供与しました。

●妊産婦と新生児の保健サービスへのアクセス向上を達成するための活動

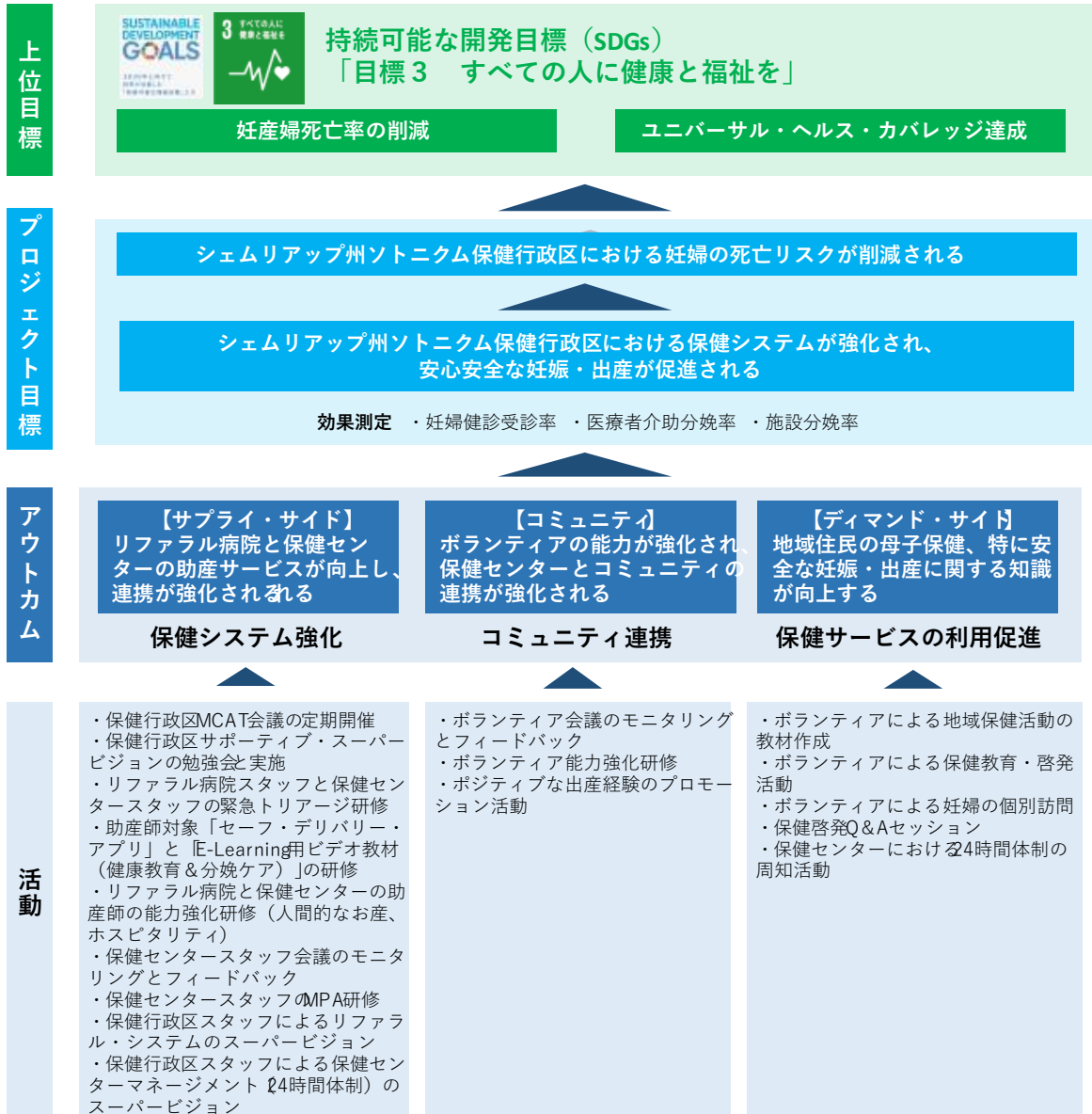
郡内農村部の対象村にて228人の母子保健推進員を育成しました（2023年7月と2024年5月に研修実施。141村にて累計669人育成）。加えて、昨年度に育成されて活動を実施している母子保健推進員217人に再研修を実施しました（2024年5月）。育成された母子保健推進員は、村での保健教育（合計444回）や妊産婦の家庭訪問を行いました。また、伝統的産婆が活動している13村にて地域住民を対象としたマスマーケティングを実施しました（2023年11月～2024年5月）。レウエイ郡保健局スタッフと地域保健センター担当者による対象11保健施設の管理モニタリングを継続しました。補助助産師（タッコン郡20人、レウエイ郡40人）に清潔なお産キット（216セット、263セット）を供与しました。そして、レウエイ郡で活動する36人の補助助産師のスキル・モニタリング（妊婦健診、分娩介助、産後検診）を実施しました（2024年5月）。加えて、保健サービスの利用を促進するためのプロモーション活動として、保健施設でのポジティブな出産体験のお話し会を開始し（2023年9月）、7保健施設で実施しました。併せて、保健施設で出産した母親に新生児キットの贈呈を開始し（2023年11月）、合計291人の母親に贈呈しました。

●日本国内での活動

イベント「ミャンマーで“妊婦”になるってどういうこと？～お母さんに優しい社会のカタチ～」をJICA地球ひろばで開催しました（2024年6月）。

安心安全な妊娠・出産を支える

事業期間: 2023年4月から2026年4月(3年間)



ミャンマー

ネピドー行政区レウェイ郡妊産婦と新生児の健康改善のための保健システム強化支援事業

母と子の安心・安全な出産を支える

事業期間：2020年12月から2025年5月（約4年間）



2024 年度決算(2023 年 7 月 1 日～2024 年 6 月 30 日)

(単位：円)

科 目	2023年度	2024年度		
	決算	予算	決算	差異
I. 経常収益				
1. 受取会費	27,146,000	25,600,000	25,803,000	203,000
団体賛助会費	23,180,000	22,000,000	21,980,000	▲ 20,000
個人賛助会費	3,966,000	3,600,000	3,823,000	223,000
2. 受取寄付金	18,242,006	13,000,000	17,340,174	4,340,174
法人寄付金	9,200,000	5,500,000	8,003,920	2,503,920
一般寄付金	9,042,006	7,500,000	9,336,254	1,836,254
3. 受取助成金等	42,874,564	37,890,000	▲ 3,940,474	▲ 41,830,474
助成金	0	0	0	0
補助金	42,874,564	37,890,000	▲ 3,940,474	▲ 41,830,474
4. 事業収益	0	29,990,000	25,596,000	▲ 4,394,000
受託事業収入	0	29,990,000	25,596,000	▲ 4,394,000
5. 雑収益（利子等）	44,007	0	28,592	28,592
6. 商品寄付	0	0	0	0
経常収益合計	88,306,577	106,480,000	64,827,292	▲ 41,652,708
現金	88,306,577	106,480,000	64,827,292	▲ 41,652,708
商品	0	0	0	0
II. 経常費用				
1. 事業費	67,495,924	96,850,000	85,287,010	▲ 11,562,990
カンボジア支援費	28,891,986	37,350,000	36,248,464	▲ 1,101,536
ミャンマー支援費	22,018,826	41,850,000	31,528,694	▲ 10,321,306
広報・募金活動費	16,585,112	17,650,000	17,509,852	▲ 140,148
2. 管理費	15,749,363	14,650,000	15,605,988	955,988
3. 商品寄付	5,950	0	0	0
経常費用合計	83,251,237	111,500,000	100,892,998	▲ 10,607,002
現金	83,245,287	111,500,000	100,892,998	▲ 10,607,002
商品	5,950	0	0	0
III. 当期正味財産増減額	5,055,340	▲ 5,020,000	▲ 36,065,706	▲ 31,045,706
現金	5,061,290	▲ 5,020,000	▲ 36,065,706	▲ 31,045,706
商品（在庫）	▲ 5,950	0	0	0
IV. 前期繰越正味財産	108,357,383	113,412,723	113,412,723	0
現金	108,351,433	113,412,723	113,412,723	0
商品（在庫）	5,950	0	0	0
V. 次期繰越正味財産	113,412,723	108,392,723	77,347,017	▲ 31,045,706
現金	113,412,723	108,392,723	77,347,017	▲ 31,045,706
商品（在庫）	0	0	0	0

注) 2024 年度次期繰越正味財産に占める「用途等が制約された寄付等の期末残高」は 23,906,719 円